

令和4年度 日韓文化交流基金 事業実績

一般会計

1. 自主事業

(1) 第36回日韓文化交流基金韓国訪問団

令和2、3年度に続き、令和4年度についても、新型コロナウイルスをめぐる状況に鑑み、実施を見送った。

(2) 第21回日韓文化交流基金賞

上記「第36回日韓文化交流基金訪韓団」の見送りに伴い、本件事業についても実施を見送った。

(3) 基金創立40周年プレ企画

「ポストコロナの日韓交流 ～新しい世界をめざして～」(交流支援制度)

コロナ禍下での経験を生かした新たな交流プログラムやバージョンアップした事業に対する支援を行った。

合計6件

No.	事業名	申請団体	実施期間
1	カフェ・コーヒー・코리아 Beyond the Border 名古屋展	名古屋展実行委員会(事務局: Social Gallery KYEUM)	令和5年 1月21日～29日
2	復活 日韓若者フォーラム	NPO 法人ヒューマンフェロウシップ	令和5年 2月1日～3日
3	もっと、ずっと、日本と韓国を好きになる	MOON	令和5年 2月11日
4	日韓大学生研修事業 in 釜山『VUCAの時代を共に生き抜くためのリーダーシップを高めよう』	一般財団法人 静岡市国際交流協会	令和5年 2月19日～23日
5	新時代の日韓共同課題フォーラム: 日韓の外国人政策と多文化社会	韓日社会文化フォーラム (KJForum)	令和5年 2月24日～27日
6	日韓文化交流イベント【対馬から世界へ】	Ryu 企画	令和5年 3月5日

2. 賛助会員制度

(1) 加入（会費：一口1万円）の状況（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

種別(年会費)	人数/法人数	口数	金額
①特別会員(3口以上)	6名	20口	200,000円
②個人会員(1口以上)	42名	44口	440,000円
③法人会員(5口以上)	1団体	5口	50,000円
計	48名 1団体	—	690,000円

(令和5年3月31日現在有効会員)

①特別会員（五十音順）

小野正昭(3) 鹿取克章(3) 金春美(3) 古賀信行(3) 中江新(5) 渡辺浩(3)

計6名

②個人会員（五十音順）

青野正明	阿部孝哉	飯島渉	石川武敏	磯崎典世
稲葉真岐子	林在圭	内田富夫(2)	及川俊男	大竹洋子
菅野修一	木畑洋一	小林直人	高麗文康	坂井俊樹
酒勾康裕	櫻井浩	佐藤俊行	上保敏	白川豊
シン・ジュンヨン	田中正敬	塚本壮一	陽清学園 津谷正毅	都恩珍
永井哲	中塚明	西澤豊	波田野節子	墨の美術館 濱崎道子
日本民藝館館長 深澤直人	福原裕二	藤田昭造	藤本幸夫	堀泰三
馬定延	前田二生	松井貞夫(2)	實生泰介	茂木敏夫
余田幸夫	和田とも美			

計42名

③法人会員

和光物産株式会社(5)

計1団体

(2) 会費収入の使途

(i) 【講演会】

オンライン講演会を令和5年3月に開催。

・令和5年3月9日 参加者：214名

「自分なりの韓国とのつき合い方～韓国語教育者の視点～」

(講師：稲川右樹 帝塚山学院大学リベラルアーツ学部准教授)

(ii) 【学術定期刊行物助成】

当基金学術定期刊行物助成事業の対象刊行物2点に対する助成金(400,000円)として活用した。

書名	申請団体
『韓国朝鮮の文化と社会』第21号	韓国・朝鮮文化研究会
『現代韓国朝鮮研究』第22号	現代韓国朝鮮学会

3. 外務省からの受託事業

(1) 日韓歴史家会議

行事名	開催日	会場
講演会「歴史家の誕生」 第22回会議	令和4年11月19日	東京*
「歴史研究の三分法をめぐって 一過去・現在・未来」 参加者：日本側 12名 韓国側 12名	令和4年11月19日～11月 20日	東京*

* 東京での会場参加のほか、一部はオンラインにて参加

第1特別会計

日韓学術文化・知的交流事業

1. 助成事業

合計 17 件

No.	事業名	申請団体	実施期間
1	日韓オンラインリーディング ワークショップ	一般社団法人フリ ンジシアターアソ シエーション	令和4年 6月24日、 7月22日
2	日韓文化活動(福祉レクリエーション 等)交流事業	認定NPO法人日本 車椅子レクダンス 協会	令和4年 10月21日～ 23日
3	日韓就労支援共同研究フォーラムおよ びG5就労支援サミット	一般社団法人京都 自立就労サポート センター	令和4年 11月21日～ 22日
4	Hand Shadows ANIMARE (The 30th ASSITEJ Korea International Summer Festival)	劇団かかし座	令和4年 7月19日～ 25日
5	共通の課題解決のための日韓大学生に よるオンラインセミナー	筑波大学 國分研究室	令和5年 1月16日、 2月6日

6	第4回とやま世界こども舞台芸術祭 (PAT2022)	とやま世界こども 舞台芸術祭実行委 員会	令和4年 7月30日～ 8月3日
7	第38回日韓学生フォーラム	第38回日韓学生 フォーラム	令和4年 8月4日～10日
8	ATMAN&MIR 合同オンライン ワークショップ	THEATRE ATMAN	令和4年 8月5日～ 16日
9	第17回日韓学生未来会議	JKSFF (日韓学生 未来会議)	令和4年 8月8日～ 11日
10	第37回日韓学生会議夏季交流大会	第37回日韓学生 会議	令和4年 8月8日～ 19日
11	「日韓交流おまつり2022 in Seoul」 津軽三味線 輝&輝 派遣事業	津軽三味線 輝&輝	令和4年 9月24日～ 26日
12	「日韓交流おまつり2022 in Seoul」 舞踊集団 菊の会 派遣事業	舞踊集団 菊の会	令和4年 9月24日～ 26日
13	第4回 HOTPOT 東アジア・ダンス プラットフォーム	公益財団法人 横浜市芸術文化 振興財団	令和4年 9月25日～ 10月5日
14	日韓精神障害者交流事業	一般社団法人精神 障害当事者ポルケ	令和4年 9月26日～ 30日
15	対馬の歴史と文化と自然を知る 日韓ユース・ワークショップ	朝鮮文化財 ワークショップ 実行委員会	令和4年 11月11日～ 14日
16	日韓子ども民俗芸能祭	ライブ・フェステ ィバル in OITA 実行委員会	令和4年 10月29日～ 30日
17	田内千鶴子(尹鶴子)生誕110周年 記念行事を通じた日韓次世代の交流と 親睦事業	社会福祉法人 こころの家族	令和4年 10月27日～ 11月11日

2. 学術研究者交流事業

(i) 招聘

合計 12 名(前年度からの継続者 1 名)

No.	氏名	研究テーマ	受入機関	期間
1	金東水	日朝関係の展望と日米韓同盟強化 方案研究	早稲田大学日米 研究所	令和 4 年 3 月 28 日～9 月 23 日
2	李元徳	米中戦略競争時代における日韓関 係のビジョン探求	慶應義塾大学法 学部、東アジア 研究所現代韓国 研究センター	令和 4 年 5 月 24 日～10 月 7 日
3	韓相弼	社会災害に対応するための日本と 韓国の民間消防に関する特性の分 析	京都大学大学院 工学研究科	令和 5 年 1 月 2 日～2 月 17 日
4	朴炳垠	紙の基板を用いた高効率強誘電体 太陽電池の製作可能性の検討	東京工業大学工 学院電気電子系	令和 4 年 8 月 4 日～令和 5 年 1 月 30 日
5	金珠賢	高齢者ケアの社会科－Caring Democracy の共同体的解決の可能 性探索	京都大学大学院 文学研究科	令和 4 年 9 月 1 日～令和 5 年 2 月 27 日
6	崔元碩	日韓における名山文化の歴史地理 的比較調査研究の試論	中部大学国際関 係学部国際学科	令和 4 年 9 月 28 日～令和 5 年 3 月 26 日
7	許芝銀	17～19 世紀に流通した出版物を通 して見た名古屋地域民の朝鮮認識	名古屋大学大学 院人文学研究科	令和 4 年 12 月 20 日～令和 5 年 2 月 25 日
8	韓相一	明治後期の近代日韓政治外交史	東京大学大学院 総合文化研究科	令和 4 年 12 月 8 日～令和 5 年 3 月 31 日
9	許文明	日韓産業交流史～半導体分野を中 心に～	早稲田大学日米 研究所	令和 4 年 12 月 27 日～令和 5 年 2 月 28 日
10	洪宗郁	戦時期朝鮮知識人の「近代の超克」 論	東京外国語大学 大学院総合国際 学研究院	令和 4 年 12 月 22 日～令和 5 年 3 月 26 日

11	洪昌裕	都市洪水における予防復元性を確保するための参加型河川復元に関する研究	JETRO(日本貿易振興機構)アジア経済研究所	令和4年12月26日～令和5年2月24日
12	林希炫	1920～30年代の東京の知的風景と韓国作家の留学経験の意味-法政大学の事例を中心に	東京外国語大学大学院総合国際学研究院	令和4年12月19日～令和5年3月31日

(ii)派遣

合計 1名

No.	氏名	研究テーマ	受入機関	期間
1	松下茉那	韓国の社会的不利地域における社会開発実践について-チョッパン地域の住民協働会を中心に-	高麗大学校国際大学院	令和4年4月3日～9月25日

3. 情報広報事業

(i)広報誌

日韓文化交流基金NEWS 98、99号刊行

(ii)ウェブサイト

基金のウェブサイトを継続・運営し事業の広報・情報提供を行っている。

年月	ユーザー数	ページ/ セッション ¹⁾	新規訪問の 割合(%)
令和4年 4月	4,890	2.09	77.92
5月	3,174	2.62	60.07
6月	2,374	2.71	73.53
7月	2,777	2.71	72.15
8月	2,105	2.52	72.11
9月	2,171	2.84	68.02
10月	2,160	2.90	74.49
11月	1,899	2.76	66.74
12月	2,054	2.62	64.31
令和5年 1月	2,245	2.94	65.16

2月	3,083	2.38	76.01
3月	2,556	2.97	68.70

- * 「セッション」: ウェブサイトを閲覧し退室するまでの一連の操作
- * 「ページ/セッション」: ウェブサイト訪問から退室までに閲覧されたページ(延べ数)の平均値

(iii) ツイッター

基金ウェブサイト更新情報の紹介や、各種行事の参加希望者募集に活用している。
登録者数は 1,851 名(令和 5 年 4 月 25 日現在)。

(iv) フェイスブック

基金が実施する事業の活動の様子などを写真や文章を用いてタイムリーに発信している。
登録者数は 974 名(令和 5 年 4 月 25 日現在)。

4. 人的交流事業(教員訪韓事業)

日本の教員を韓国へ派遣し、教育現場の視察、関係者との懇談及び交流を通じ、互いの教育への取組みに接することで、日韓間の相互理解と信頼関係の増進に寄与することを目的とする交流事業を実施。JENESYS の派遣事業に社会人が含まれないため本会計で実施。

令和 4 年度は新型コロナウイルスの影響により、オンラインで実施。

合計 1 団体 24 名

No.	案件名	団体数	人数	期間
1	日韓学術文化交流プログラム	1	24	全 3 回(令和 4 年 10 月 22、29 日、11 月 5 日)

第 12 特別会計(JENESYS2022)

○諸外国・地域の優秀な青年を対象に、日本に対する関心と理解を向上させ、また、プログラム経験をいかした活動をしてもらうことで、知日派を発掘・育成し、外交基盤を拡充する。

○参加者の専門性、関心分野に沿って、政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策等に対する対日理解を促進し、参加者からの対外発信の強化を図る。

これらを目的とした次の事業を実施。

(1) 招聘・派遣事業

(i) プレプログラム 招聘計 4 案件 270 名、派遣計 1 案件 23 名 合計 5 案件 293 名

No.	案件名	招聘	派遣	期間
1	大学生訪韓団		23	全 2 回(令和 4 年 9 月 10、17 日)
2	在韓公館選抜 韓国青年訪日団第 1 団	19		全 1 回(令和 4 年 9 月 16 日)
3	韓国大学生訪日団	20		全 3 回(令和 4 年 9 月 17、24 日、10 月 15 日)
4	在韓公館選抜 韓国青年訪日団第 2~4 団	123		全 1 回(令和 5 年 1 月 6 日)
5	在韓公館選抜 韓国青年訪日団第 5~7 団	108		全 1 回(令和 5 年 2 月 10 日)

(ii)本プログラム(オフライン)招聘計4案件266名、派遣計1案件23名 合計5案件289名

No.	案件名	招聘	派遣	期間
1	在韓公館選抜 韓国青年訪日団第1団	17		令和4年9月23~29日、 6泊7日間
2	大学生訪韓団		23	令和4年9月23~29日、 6泊7日間
3	韓国大学生訪日団	19		令和4年10月24~30日、 6泊7日間
4	在韓公館選抜 韓国青年訪日団第2~4団	123		令和5年1月13~19日、 6泊7日間
5	在韓公館選抜 韓国青年訪日団第5~7団	107		令和5年2月19~25日、 6泊7日間

(iii)本プログラム(オンライン)招聘計3案件101名、派遣計2案件86名 合計5案件187名

No.	案件名	招聘	派遣	期間
1	韓国大学生訪日団(第1~2団)	42		全3回
2	大学生訪韓団(第1~2団)		42	(令和4年5月28・6月4、25日)
3	日韓学術文化交流プログラム	19		全3回 (令和4年10月22、29日・11月5日)
4	日韓高校生交流プログラム	40		全3回
5	日韓高校生交流プログラム		44	(令和4年10月22、29日・11月5日)

(2)フォローアップ事業

No.	案件名	既招聘者	既派遣者	期間
1	JENESYS 同窓人の夕べ	213		全3回(いずれもオフライン) (令和4年8月26日、10月21日、令 和5年3月18日)
2	JENESYS2022 日韓次世代会議	42	47	全4回(オンライン3回、ハイブリッド1回) (令和4年9月17日、10月15日、11 月19日、12月17日)

(了)